

「専門部よりこんにちわ」

一年を振り返って

学年学級部

部長 佐々木 陽子

学年学級部長という任を何も分らないままお引受けして早一年が過ぎました。学年行事に付きましては、各学年のクラス代表さん達の活躍と先生方の御協力で、どの学年も工夫のきいた思い出に残る内容の濃いものでした。又、懇談会に付きましても先生を囲み、和気あいあいと話しがはずみクラスによっては、司会者が進行を忘れる程でした。これからも学級PTA活動を活発にするためには、一人でも多くの人の参加を宜しくお願い致します。



安全補導部

部長 水越 士郎

学校並びに会員の皆様方の御蔭で事故もなく一年間を閉めくくらせて頂く事が出来ました。振替って見れば今年も立しよう廃止と云う重大な局面において安全補導部長を担当させて頂き不安もありました。しかし多くの方の協力と御尽力をいただき五回の交通安全指導を行なう事ができ、立しよう廃止に向かうなかで児童の安全意識の高揚を図る事が出来ました。今後とも事故が起こらないよう皆様方の御指導並びに御協力をお願い申し上げます。

環境整備部

「お父さん」出番ですよ！

部長 山口 成生

昨年初めて本部の役員を引き受けさせて頂きました。が、それまでは、学校行事への参加についてすべて「お母さん」まかせであり運動会と両親学級ぐらいが「お父さん」の出番でした。この一年間のPTA活動にて考えさせられた事は、もっと多くの場面でお父さん方の参加が必要であると云う事です。

お母さんばかりにまかせておらずにそろそろお父さんの(力)を学校教育の場でおおいに発揮していただきたいと願っております。

福祉教養部

部長 荒木 良樹

福田 愛子

何も分からず、おろおろしながらの一年でした。思い返せば、紙すきのパルプ作り、運動会の町別りレーなど、関係者の方には大へんなご苦勞をお掛けし、申し訳なく反省ばかりですが、また御協力頂いたことに感謝しております。

この一年、私にとりましては貴重な経験をさせて頂いたことと、無事に行事を終了出来ました事を、心から御礼申し上げます。



広報部

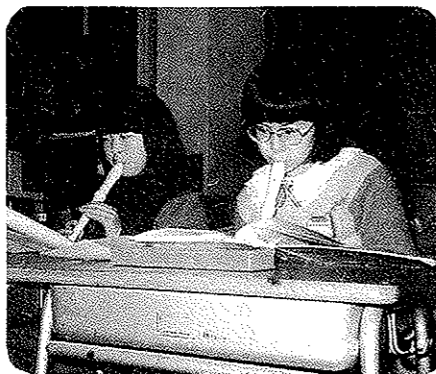
部長 松永 和子

一年間の御愛読、ありがとうございます。『しでがの』の発行にあたり、部員一同、「和」となって意識ある広報活動が、実現できた事を、心より感謝しております。そして又、原稿依頼に、御協力して下さいました先生方をはじめ、会員の皆様、ありがとうございます。これからも、「しでがの」をよろしく願致します。

クラブ訪問

「おじやま、しまへす」

すてきな音が聞こえそう...



リコーダー

部員 十一名

- (1)「笛が、好きだったから。」
- 「音楽が、好きだったから。」
- 「色々な笛が、吹きたいから。」
- 「新しく出来たクラブで、笛が好きだったから。」
- (2)「クラブ集会に、出たい。」
- 「発表したい場所が、欲しい。」
- 「リコーダーばかりの、レコード鑑賞してみたい。」

部員さんへのインタビュー

- (1) どのところが好きで入部したの？
- (2) 目的・目標・希望などは？

郷土

部員 十九名

- (1)「五年生の時だったので、おもしろかった。」
- 「おもしろそうだった。」
- 「四年生の時から続いている。」
- 「興味があった。」
- 「さそわれた。」
- (2)「昔の遊びを、つくりたい。」



おととととと... 慎重にね

色々なことをするよ、君達も！



レクリエーション

部員 二十八名

- (1)「遊びばかりだから。」
- 「他のクラブに、いたけれどもこのクラブが、おもしろそうだったから。」
- (2)「プールで、色々な遊びをした。」
- 「プールで、さくら組がしていた遊びをしたい。」
- 「ボールを使った遊びを、してみたい。」



何編んでるの？

あみもの

部員 十六名

- (1)「色々なものを、つくりたかったから。」
- 「あみ物が好きだから。」
- 「おもしろそうだったから。」
- 「自分で作った作品が、欲しかったから。」
- 「手あみのポシェットが、欲しいから。」
- 「手あみの作品をみて、感動したから。」
- (2)「セーターを、あんでみたい。」
- 「手袋を、あんでみたい。」
- 「チョッキを、あんでみたい。」
- 「作品の展示を、やってみたい。」
- 「クッションを、あんでみたい。」

「うん」
「何という字だったのかなー」



読書

部員 十五名

- (1) 「本を読むのが、好きだから。」
- 「もっともっと読みたいから。」
- 「色々な読み方が好きだから。」
- 「読書クラブが、楽しそうだったから。」
- 「作者が、好きだから。」
- (2) 「図書館の本を、たくさん借りたい。」
- 「図書館の本を全部読みたい。」
- 「歴史の本を増やしてほしい。」
- 「時間中、本を読みたい。」
- 「作者の人を、たくさん知りたいたい。」
- 「本の作者が、何を言いたいか考えたい。」

◆◆◆◆◆ 教員生活に ◆◆◆◆◆

ピリオド

「出会いと共に」

鈴木 蒞子

「出会い」ということばにすてきな意味づけがあったはずなのに。十年前の朝日新聞の天声人談の中のことばに酔ったことは事実であった。

今、私は羽津小を最後に教師生活にピリオドを打つことになって

いる。

私此の教師生活十八年、そして四日市で二十年、この月日の中で何千人との出会いがあったことは確かである。殊に児童との出会いは大きくとても新鮮であった。

私には、老いとか年寄りとかという感覚がなく、自分勝手な考えで生きてきたような気がする。

児童には、責任を求め自己開発を望んだ。できるということまで信じこませてきた。

今、担任の児童は三十五名、二年間のつき合いをして出会いでもあった。本校での二年間の在職、もっと児童と話し会いたかった。もっと児童と考え会いたかった。もっと児童と共に創り出したかった。そして大いに読書をすすめたかった。

あの「出会い」のすてきな意味が分かるまで――。

二十年間

御苦勞様でした

御出産

おめでとう

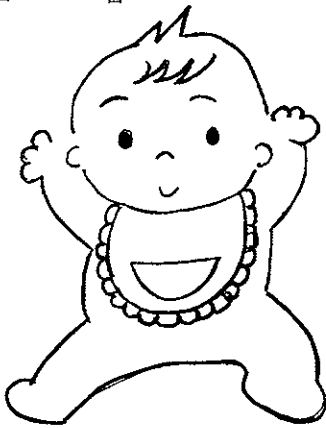
ございます

古市真理子先生 (男児)

昭和六十三年十二月三十日

河本 武子先生 (女児)

平成元年二月十五日



編集後記

- ☆二十年ぶりの広報部。いやあ、時代は変わったのだ。けど充実。
- ☆初めての広報部。何もわからず少々緊張して一年過ぎました。
- ☆頑張ったわ広報部。皆様楽しく読んで下さいね。私のお願ひ！
- ☆しでがのに載せる写真のシャッターチャンスが、大変だった。
- ☆広報部に入り、しでがのづくりで色々勉強させて頂きました。
- ☆一生懸命づくりあげた、しでがの是非、愛読して下さいね。
- ☆取材に出かけたり、写真を写したりして、色々な体験をさせて頂き、勉強になりました。
- ☆自分のとった写真が、広報誌にのった時は、感激ひとしお！

